

令和3年度 第3回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会 会議録	
日時	令和3年9月8日(水) 13:30～
開催場所	市庁舎
出席者	(委員) 小宮輝之委員長、浅井紀代子委員、齋藤毅憲委員、佐渡友陽一委員、間曾さちこ委員 (指定管理者) 横浜市緑の協会
開催形態	非公開
議 題	1 中間評価 2 指定管理者プレゼンテーション・質疑応答 3 令和3年度第2回横浜市指定管理者選定評価委員会会議録
<p>1 中間評価について(確認)</p> <p>・了承</p> <p>2 指定管理者プレゼンテーション質疑応答</p> <p>・これまで5年間の評価について、4年間B評価でその後A評価になったことに表れているように、様々な改善が行われた印象がある。だがまだ Aマイナスといった状態だと思うので、このA評価はまだ努力を要する状況であると認識してほしい。</p> <p>→そのように認識している。A評価は難しいと感じていた状況の中でいえば、頑張った成果だと感じているが、点数では前年から1%の伸びでありこれに満足することなく、前年と同じことを行うだけでは評価は維持できないということも職員と共通の認識を持ち、取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>・評価項目とプレゼン内容の相違が生じているのはなぜか。評価項目は理解しているか。</p> <p>→評価項目については理解している。プレゼンについては、市からプレゼン時の留意項目と伝えられていた項目を基準に作成した。</p> <p>・(市への要望) 情報に相違があると評価にロスが生じるため、今後は整理してほしい。</p> <p>→承知した。</p> <p>・利用者調査の結果は良い結果となっているが、横浜市民の3動物園の認知度はどのくらいか。またリピーターを集められる施設になっているか。</p> <p>→利用者調査は来園者に対するアンケート結果のため、横浜市民の認知度がどれくらいかという調査にはなっていない。このような調査は指定管理者だけでは対応できないため、必要であれば横浜市とも相談しながら考えていきたい。</p> <p>・客層の分析はどの程度できているか。</p> <p>→居住地や年代はアンケートにより把握しており、PRを行う際のエリア選定などに反映している。来園のきっかけとして一番多いのは、家族や友人に誘われたということであり、来園目的では動物を見ることが一番に挙げられ、次に散歩やウォーキングという結果がでていいる。来園者構成としては、家族が一番で次に配偶者やパートナーである。</p> <p>・そのような分析ができていることが重要である。営業戦略として、似たような条件の施設に比べ何が比較</p>	

優位かを常に意識しておく必要がある。

・コロナ禍なども考慮し目標入園者数を見直したほうがよいとの意見がこれまででていたが、いつ直すのか。

→（市）検討はしているが変える決定はない。

・今回の指定管理期間が終わってからということか。

→（市）明言はできない。

・変更が可能であれば前向きに考えてほしい。

・指定管理者組織（横浜市緑の協会）は動物園の占める割合がかなり大きいと思うが、組織名称や組織体系がその業務ウェイトに合った形になっているか。

→横浜の動物園としてのブランディングなども含めて考えていかなければいけないと考えている。また組織体系では、3動物園の管理運営を行っている動物園部のほか、売店の経営や広報広聴などについては総務部に事務がおかれている。そのように分散されている点について、今後は一括するなど組織の強化に取り組む予定である。

・緑の協会全体に占める動物園関係のスタッフの割合や全体の予算規模に対する動物園運営予算の割合など、今度教えてほしい。また、動物園のウェイトが大きいのであればトップの方が月1回、2回ぐらいは3園を歩いて情報をとる意識でいてほしい。

・将来に向けては、3園全体のみについて書かれているので、3園それぞれの強みやアドバンテージを活かして発展させる説明が欲しい。

→（ズーラシア）種の保存や動物園の4つの役割をバランスよく果たしていくことが求められているので、しっかりやっていきたい。特に総合的な動物園として海外の主要動物園との連携などが課題と認識している。今後も動物の収集だけでなく動物園のあり方や動物福祉への取組も含めて強化していきたいと考えている。現在 WAZA とか SEAZA などと関わり業務を行っているが違うエリアにも連携の範囲を広げていきたい。また、お客様サービスではキャッシュレス化の対応など改善すべき点もまだある。一部着手しているものもあるが残りの5年間で強化していきたい。

→（金沢動物園）3動物園の中でも眺めや環境が良いのは金沢の魅力である。3園で連携しながらしっかりと動物園の役割を伝えていくとともに身近な地域の動物の保全にこれからも力を入れて取り組んでいく。金沢動物園には知名度アップの課題があるが、来年の開園40周年を機に新たな取組を考えているところである。

→（野毛山動物園）一番はじめに訪れるファースト動物園という特徴がある。こどもが小動物のふれあいを通じて命の大切さなどを感じられる施設を目指しているが、コロナ禍にありかなり苦しく模索している状況である。なかよし広場のふれあいは、これまで小学校や幼稚園を含めて多くの方が教育活動で利用していたが、今後もコロナウィルスの対応が必要な状況下で、どのように再開しそして動物福祉を考慮した改良ができるかが大きな課題であると認識している。また、野毛山動物園には他の2園にはない爬虫類館があり、事業評価で評価いただいたヘサキリクガメを含め繁殖や保全、さらに飼育する人材育成も含めて取り組んでいきたいと考えている。

・大学と共同研究しているふれあい事業については、検証結果に期待している。

・海外の域内保全への貢献も種の保存に含まれると思うが、そのような大きな枠で捉えたときに域内保全の貢献はどのようなものがあるか。

→国内ではゾーラシアのみが飼育しているテングザルについては、インドネシアと研究連携や金銭的支援も行っている。また飼育個体がアメリカから来ているオカピについては、北米のSSPに加盟し毎年寄附金として金銭的支援を行っている。

・こういった点も含めて説明をしてほしい。

・人材育成の体系が5年間で完全に整備されたといえるか疑問である。

→嘱託員やプロパー職員も継続して雇用しており、新採用職員研修は各職場で実施している。また、動物逸走などの事例も受け中堅・ベテラン職員に対しては、これまでの仕事を振り返りも含めたヒヤリハット研修を新たに実施した。それらに加え、日常3園で取り組んでいるOJTも含め具体的な形はできてきていると感じている。だが完全に整理がされていないため、その都度3園の園長や副園長と相談しながら進めている状況である。

・新入社員や3年目の離職率はどのくらいか。

→正規職員の離職は、ほぼない。正規職員の採用に当たっては受験年齢の見直しなど知識を備えた人材確保の取組も行っている。嘱託員は5年間の有期限雇用のため他動物園の試験を受け離職することは比較的多い。

・採用にあたり多様性・ダイバーシティの取組を意識しているか。

→障がい者雇用については、事務スタッフとしてパートタイム職員の雇用を進めており法定雇用率を満たしている。

・色々な機関と研究をすすめているが、どのように市民へ公開しているか。情報発信を積極的に行ってほしい。

→(市)研究実績は、ホームページで公開し市民に還元するようすすめている。また、イベント時にはポスター発表した内容を展示している。

・動物園の情報公開は今後の一番の課題になると思う。

(委員意見)

・金沢動物園のプログラムのZOO TO WILDセミナーは参加者アンケートもあり分かりやすかったが、ツルグレン装置の体験については、動物園で行うことの意義づけを整理しているのか気になった。

・域内保全と域外保全の言葉の使い方や意義づけについて、整理をしてほしい。域外保全で説明があった内容も、単に動物園の飼育個体群の維持に貢献しているようにも見え、果たして生息地の野生復帰を視野に入れている活動が微妙である。域内保全は園内の動物だけでなく園外も考えなくてはいけない。

・マーケティングについていえば少子化対策ができてきているか、つまり新しい客層の開拓を視野に入れているかという点が気になった。

- ・ブランディングへの取組がデザインだけになっているように見え、戦略ができているか疑問である。
- ・コロナウィルスの状況もあり市民参加など、今後どのように変わっていくかについて気になる。
- ・プレゼン項目の整理の仕方に違和感がある。例えば企業との共同募金会の実施やフェアトレード商品の販売がレクリエーションの項目に含まれていたり、SNS・ブログが環境教育の中に含まれていたりしている点である。他にもいくつかあるが、折角色々取り組んでいるのに体系化して整理できていないという印象を受けた。ブランド価値の向上面も含め、まとめ方については市からも指導してほしい。
- ・園毎よりも課題ごとにまとめたほうが良かった。
- ・経営的視点に立った事業の取組というのは、環境に優しい動物園、市民参加、市民協働の推進、ブランディングへの取組なども含めたものではないか。ファイナンス的側面は、経営の一部であって必ずしも全体ではない。お金を集めることだけを経営と捉えてはいけない。
- ・ブログの発信件数や閲覧件数が伸びており、努力の成果が出ているといえる。だが、内容については魅力的とはいえずこの先まだ工夫する必要がある。またこれをもって調査研究の役割を担っていると自己評価している点にも疑問が残る。
- ・協会本部も含め世の中の動向にももう少し敏感でいてほしい。例えば企業はいわゆるIR活動やSDGsについて非常に考えていて、また就職する人は企業の考え方や労働環境を意識する時代になっている。動物園は環境保全にも密接に関わる場所であるので、もう少し積極的な姿勢が必要である。
- ・緑の協会はどのような公益性を実現していくかを掲げ、またそれにコミットする人たちを採用するような人材育成戦略が望ましいが、現在はまだ見えてきていない。
- ・これまで5年間は適切に運営がされており、特に動物園の現場の取組に関しては高く評価できる。だが、経営戦略や3園の総括の整理方法などについては、まだまだ改善すべき課題がある。
- ・本日指摘された問題を意識して、残りの指定管理期間も引き続き適切な運営を期待したい。

3 令和3年度第2回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会会議録案

- ・了承

次回の日程

11月24日（水）午後

配布資料	資料1 中間評価について 資料2 令和3年度第2回指定管理者選定評価委員会会議録案
------	--